

四天王寺悲田院こども園・研徳田

創立当初からの理念を大切に、幼保連携型認定こども園として新たなスタートを切りました。子ども達の主体性を育みながら、教育・保育を一体的に提供することができました。

新型コロナウイルス感染をはじめ、感染性胃腸炎、インフルエンザが園内でもまん延し、制限のある生活ではありましたが、保育内容や行事等に工夫を凝らし、子どもを中心に日常を取り戻せるよう、保育を行ってまいりました。

今後、コロナ禍で希薄になった「人とのつながり」を大切に、ニーズを的確に捉え、地域の子育て支援の役割を果たしてまいります。

～事業活動報告～

(1) 保育 ～子どもの主体性を育む～

子どもの自発的、主体的な活動を中心に、各年齢で経験すべき遊びや生活を大切に保育を展開することができました。コロナ禍ではありましたが、環境を整えた上で、人との繋がりや異年齢児との交流の機会も増やすことが出来ました。

今後も継続して、人との関わり合いの中で社会性・協調性、思いやりの心や自己コントロール力を養う機会を支援し、主体的な活動ができる環境を整えてまいります。

(2) 人財育成 ～キャリアアップに向けて～

- ・DO-CAPシートを活用し、一人ひとりの目標と課題を明確に資質向上に取り組みました。
 - ・キャリアパスを明確にし、必要な研修を計画的に受講することにより、職員個々の専門性の向上を図ることができました。ただ、組織全体へ波及するまでには至りませんでした。
- 今後は、研修報告を行う機会や全体共有できる場を設け、外部講師による研修等を継続し、組織全体の保育の質の向上に取り組んでまいります。

(3) 地域貢献 ～安心への架け橋～

感染症の状況に応じて人数制限や対策を行いながら、安心して訪れ、相談できる環境をつくってまいりました。利用者同士の繋がりを広げ、育児の孤立や不安を和らげるよう支援することが出来ました。また、関係機関と連携を図り、地域の要保護児童への対応、早期の問題解決に取り組むことが出来ました。今後は、コロナ禍で中止や人数制限をした行事等に多くの方が参加できるよう工夫してまいります。

～改善活動～

(1) 保育の質の見直し

WEB研修を用いて職員個々の専門性の向上に取り組むことができました。委員会活動やマニュアル改訂については、職員間の連携や情報共有の仕方等の課題が見えてきたため、課題改善に向けて職場環境の見直しに取り組んでまいります。

また、昨年世間では保育士等による児童虐待が取り沙汰されたが、対策として園全体でセルフチェックを導入し、自らを振り返る機会を設けることが出来ました。

(2) 行事等の役割について

行事内容や活動内容の見直しを行い、感染症による制限の中でも子どもが自己発揮できる場にすることができました。今後はコロナ禍で学んだことを活かしつつ、以前のように行事等が行えるよう更に内容の見直しを行ってまいります。